

9年B組「木育おもちゃ学び会」

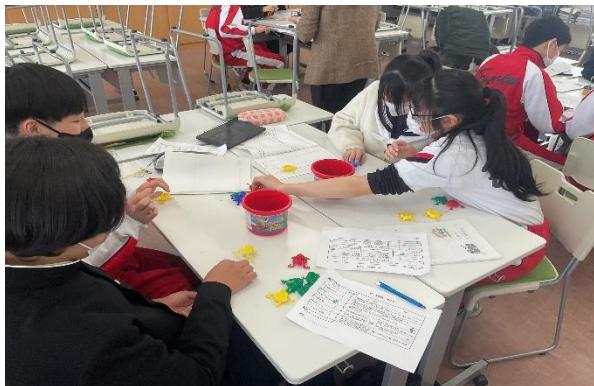
9年B組では、家庭科「子供の発達と遊び」の学習の一環として、木育インストラクターの南出真代先生をお招きし、「木育おもちゃ学び会」を実施しました。今回の学び会は、子供たちがこれまで取り組んできた木育おもちゃづくりをさらに深め、幼児の発達を理解した上でおもちゃの改善につなげることを目的としています。

授業の前半には、これまで子供たちが製作してきた木育のおもちゃについて、南出先生より丁寧なご講評をいただきました。素材の温かさや手触り、安全性、幼児が実際に遊ぶときの動きの予測など、専門家ならではの視点から多くのアドバイスをいただき、自分たちの作品を見つめ直していました。

続いて、南出先生による幼児の遊びと発達の特徴に関する講話が行われました。幼児の遊びは単なる楽しみではなく、年齢ごとの発達に応じて多様な育ちが見られること、関わり方によって遊びが広がることなど新たな視点を学びました。

講話の後は、幼児がよく遊ぶおもちゃを体験することで、幼児がどこに興味を持つのか、どのような声かけが安心や挑戦につながるのかを体感的に学ぶことができました。自然と笑顔や対話が生まれ、遊びを通して学びが深まる様子が見られました。

今回の「木育おもちゃ学び会」で得たことを今月24日の幼稚園訪問につなげていってほしいと思います。



【子供たちの声】

- これまでこだわってきた形や素材について褒めてもらったときは、自分の頑張りが認められたようで嬉しい気持ちになりました。同時に、幼児が使うときに「どこで持つか」「どう動かすか」をもっと考える必要があることも分かり、改善したいところがたくさん見えてきました。
- 角の丸さや持ちやすさなど、自分では気づけなかった細かなポイントを教えてもらい、まるで作品が一段階レベルアップしたように感じました。「幼児に寄り添うおもちゃってこういうことなんだ」と気づくことができました。
- 遊び方がどんなふうに広がるのか、どこを面白がってくれるのか、しっかり観察したいです。自分の作った木育

おもちゃで、幼児がどんな反応をしてくれるのか楽しみです。